

日赤豊看第 337 号  
平成22年 6月30日

各関係機関の長 様

日本赤十字豊田看護大学  
学長 渡 邊 英 夫  
(公 印 省 略)

教員の公募について (依頼)

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび本学では下記のとおり教員を公募することとなりました。ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、貴大学（施設）及び関係機関にご周知いただき、適任者の応募についてご配慮くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 担当領域：小児看護学
2. 職名および人数：教授（1名）
3. 採用予定日：平成23年4月1日  
(採用日応談)
4. 応募条件：次の各号のいずれかに該当し、教育研究上の能力があると認められる者とし、看護師免許を有する者。  
また、平成22年4月開設の大学院修士課程看護学研究科を担当できる者。(看護学部、大学院の担当科目については別添のとおり)
  - (1) 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、研究上の業績を有する者
  - (2) 研究上の業績が前号の者に準ずると認められる者
  - (3) 大学において教授の経歴のある者
  - (4) 大学において准教授の経歴があり、教育研究上の業績があると認められる者
  - (5) 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有する者
  - (6) その他前各号と同等以上の教育研究上の能力があると認められる者
5. 応募締切：平成22年8月末日必着
6. 採用決定：平成22年9月中
7. 応募必要書類と面接及び書類の提出先
  - (1) 個人調書：1通（別添 様式のとおり）
  - (2) 教育研究業績調書：1通（別添 様式のとおり）
  - (3) 書類提出先：〒471-8565 豊田市白山町七曲12番33  
日本赤十字豊田看護大学 総務課宛
  - (4) 問い合わせ先：日本赤十字豊田看護大学 事務局総務課  
Tel 0565-36-5111  
Mail [soumu-ka@rctoyota.ac.jp](mailto:soumu-ka@rctoyota.ac.jp)

参考：現在の担当教員の受け持ち科目となります。

<看護学部>

小児看護学概論・保健、小児看護学Ⅰ（健康障害と看護）、小児看護学Ⅱ（小児看護技術・看護過程演習）、小児看護学実習、看護活動と研究

<大学院看護学研究科>

地域生活看護学特論、地域生活看護学Ⅳ（小児がん長期支援論）、地域生活看護学Ⅴ（障がい児看護論）、地域生活看護学演習

<看護学部>

科目名	教育目標・授業目的及びねらい
小児看護学概論・保健	小児看護の変遷および小児保健・医療の動向をふまえ、小児看護の対象である小児の特徴、成長・発達、発達段階に応じた看護、家族や社会の役割・機能について学習する。
小児看護学Ⅰ	小児の健康障害について、病態・症状・診断・治療等を学び、小児の健康が障害されたことによって起こるさまざまな問題が、小児の成長・発達および家族に影響を及ぼすことを理解し、病態や発達段階に応じた看護を学習する。健康問題・障害を持つ小児と家族は看護に何を求めているのか、看護がそれにどう応えていくのか、このような視点から小児の健康回復に向けての適切な援助が考えられるようにする。
小児看護学Ⅱ（小児看護技術・看護過程演習）	看護過程演習では、事例を通して健康障害をもつ小児と家族の看護について考え、小児看護に必要な展開技術を学ぶ。技術演習では、発達段階をふまえた小児看護に必要な看護技術を学習する。
小児看護学実習	小児期にある対象と家族を理解し、成長・発達段階に応じた看護を学ぶ。
看護活動と研究	看護のトピックスを社会の情勢や医療・保健・福祉の動向から捉え理解し、看護の今日的な研究課題について論述する。

<大学院看護学研究科>

科目名	教育目標・授業目的及びねらい
地域生活看護学特論	少子高齢化社会や生活習慣病、がん等の慢性病に伴う、地域社会の多様化、複雑化、専門化する保健・医療・福祉環境の変化に対応できるように、年齢を問わず、生活の場である地域社会を基盤とした健康増進あるいは健康問題に焦点をあてる。具体的には、地域生活で健康増進あるいは健康問題と関連が強い食習慣を取り上げ、食習慣の変化や地域格差、食文化や食生態等による影響などを検討する。次に、特に有病率の高い高齢者の生活と福祉環境を理解するために、日本、英国、韓国、台湾を例に学ぶ。さらに、生活の場である地域社会を基盤とした看護援助方法を他国と比較し、創造的、先駆的に探求する。
地域生活看護学Ⅳ（小児がん長期支援論）	多剤併用化学療法、放射線療法、手術療法、造血幹細胞移植などの集学的治療を受ける子どもの看護について、高度な専門的な知識と技術、子どもと家族、他職種とのパートナーシップについて学ぶ。小児がん治療後の治療による長期的影響（晩期障害）、さまざまな問題に対応し、復園・復学・社会復帰に至るまで、小児がんの子どものトータルケアの必要性について理解し、多職種や関係機関との連携の中での看護師の役割を追求する。また、終末期における子どもの緩和ケアについて最近の研究動向を用いて探求する。がん治療における化学療法について、作用機序と副作用を明らかにし、その対策について学ぶ。より安楽な治療過程に繋がる小児がん看護への応用的能力を培う。
地域生活看護学Ⅴ（障がい児看護論）	障がいをもって医療的ケアなどを必要としながら地域で生活している子どもたちと家族に必要とされる看護について、出生前後から慢性期にいたるまでの発達段階に応じて理解し、看護を実践するための諸理論を学ぶ。さらに、障がいが生じる過程について理解を深める。
地域生活看護学演習	地域生活看護学領域で、学生が興味をもつ特定の重要な現象、援助技術、理論及びその活用方法について、集中的な文献検討を行う。そしてこれまでの研究結果を批判的に吟味することで、地域生活看護学における特定の重要な現象を解釈し、援助技術の開発の方向性、理論の妥当性などの検討を行う。